※令和４年度以降入学生用

| 学校番号 | １１１ |
|---|---|

# 令和５年度　芸能文化科

| 教科 | 芸能文化 | 科目 | 演技表現法（古典）（選択） | 単位数 | ２単位 | 年次 | ２年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書 | なし | | | | | | |
| 副教材等 | 自主教材プリント | | | | | | |

## １　担当者からのメッセージ（学習方法等）

能楽と歌舞伎を主な学習対象とします。この舞台芸術の演技方法、一般的には馴染みが少ないものですので、脚本分析やビデオ鑑賞なども交えて、授業をすすめていきます。

## ２　学習の到達目標

（１）　発声の基礎を身に着け、用語や動きの型を習得する。
（２）　能楽や歌舞伎の型からその中に込められた思いを判断したり想像したりして、各々が表現してみる力をつける。そして本来の型の厚みを表現する。
（３）　西欧近代演劇の表現方法のみが演技術ではないことに気づき、主体的に日本の古典演劇を正しく鑑賞できる力を育てる。

## ３　評価の観点及びその趣旨

| 観点 | a:知識・技能 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | ・正しい発声で大きな声が出せる。<br>・用語や音程を理解し習得している。<br>・台詞や動きの型を覚え、人前で演じられる。 | ・既知の物語を基に、アレンジして能楽風の作品を創る課題において、その趣旨が表現されている。<br>・歌舞伎特有の表現方法を理解し、適切に表現されている。 | ・古典芸能の学習を通じて、日本の伝統文化にも興味関心を広げようとしている。<br>・台詞や型を覚えるための独自な工夫をしようとしている。<br>・授業のための舞台設営やバラシの作業を積極的に行おうとしている。 |

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

| 学期 | 単元名 | 学習内容 | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 知(a) | 思(b) | 主(c) |
| 前期 | 能楽 | 能・狂言の表現方法<br>・発声について<br>・運足について<br>・型について<br>・作品研究 | a:大きな声、きれいな運足、正しい姿勢ができている。<br>b:課題の作品作りにおいて、能楽について学んだ内容が適切に表現されている。<br>c:受身的に授業に参加するのではなく、自ら創って理解しようとしている。 | 筆記テスト<br>実技テスト | 作品提出 | 授業観察<br>レポート提出 |
| 後期 | 歌舞伎 | 歌舞伎の表現方法<br>・台詞まわし<br>・身のこなし(＝型) | a:大きな声。正しい姿勢<br>b:歌舞伎特有の表現に近づこうと努力している。<br>c:師匠の手本・指示を理解し、正しく真似ようとしている。 | 筆記テスト<br>実技テスト | 授業観察 | 授業観察 |

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度